

Family Life

Column

Story part13-Volume before the life insurance which is difficult to understand after all.

おおつき先生の

保険の話 Part.62 「はじめてますか？資産運用」 Part3

■講師 おおつき先生
株式会社MD代表取締役
ライフコンサルティング

Life Insurance



【ドルコスト平均法】

最近は何雨と言っても、一昔前のシトシトと雨が降り続くといった風情のあるものではなく、一気に大量の雨がスコールの様に降る梅雨に様変わりしてしまいましたね。

さあその梅雨も明け、これから猛暑の季節となりました。皆さんお身体にはくれぐれも気を付けて、今年の夏も乗り切っていきましょう。

さて今回は前回の資産運用の中で触れました、「ドルコスト平均法」についてお話したいと思います。

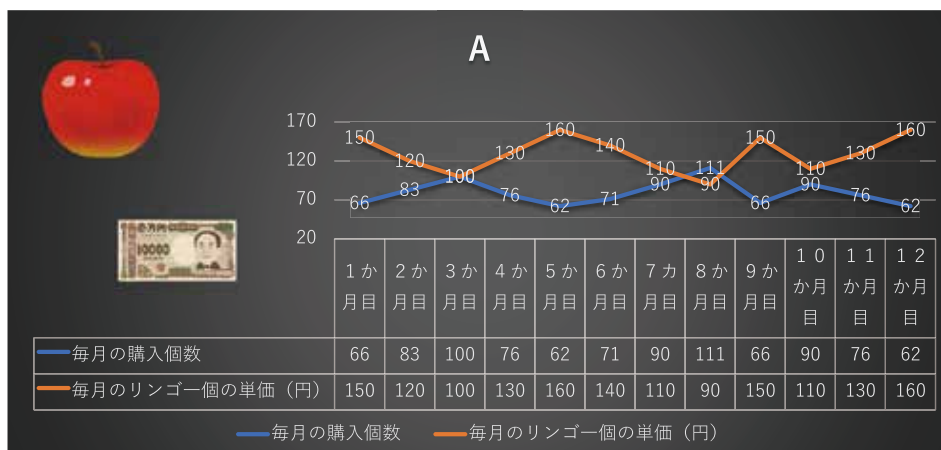
(ドルコスト平均法とは)

ドルコスト平均法とは、価格が変動する投資対象を、一定期間ごとに一定金額分ずつ購入していく投資手法です。積み立てで長期的に一定金額で購入すると、安い時に口数を多く買い、高い時に少なく買うことで、一口あたりの購入価格を下げるができるので、リスクを抑えることができるという事です。

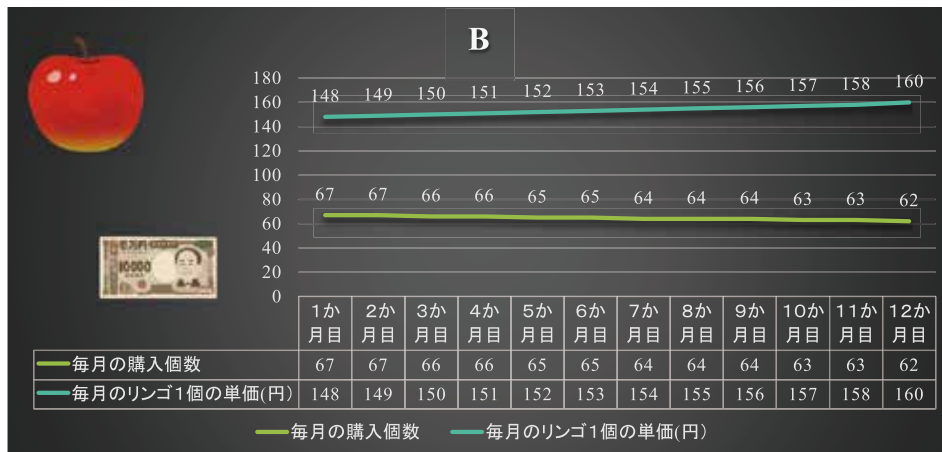
それではご理解いただくために問題を用意いたしました。

毎月1万円で買えるだけリンゴを買います。(お釣りとして残ったお金は考慮しないものとします)

パターン A リンゴの値段が毎月上がり下がりした場合

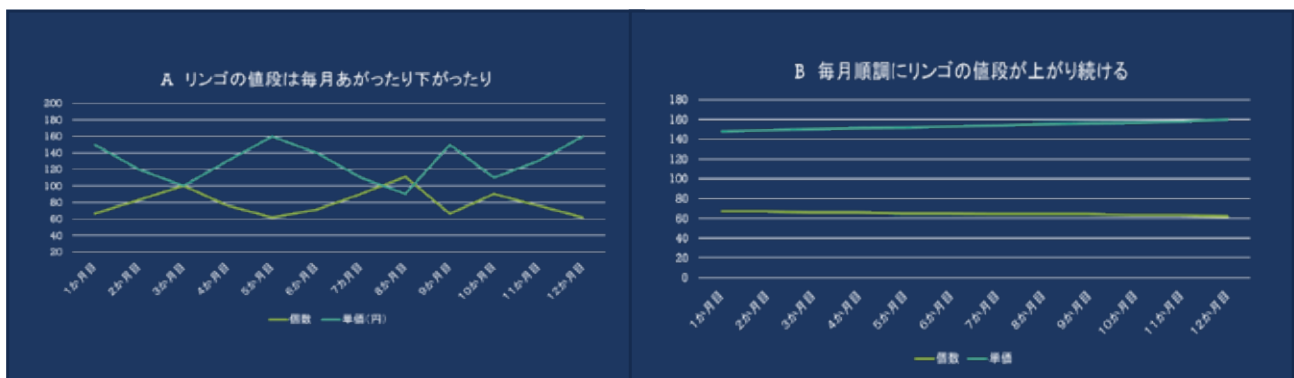


パターンB リンゴの値段が毎月少しずつ上がった場合



それでは問題です

12か月目のリンゴの単価はどちらも160円です。手持ちのリンゴを全部160円で売った場合、「A」「B」どちらが儲かるでしょうか？



まずはパターンA

Aは953個のリンゴを1個160円で売ったので
 $953 \text{ 個} \times 160 \text{ 円} = 152480 \text{ 円}$

続いてパターンB

Bは776個のリンゴを1個160円で売ったので
 $776 \text{ 個} \times 160 \text{ 円} = 124160 \text{ 円}$

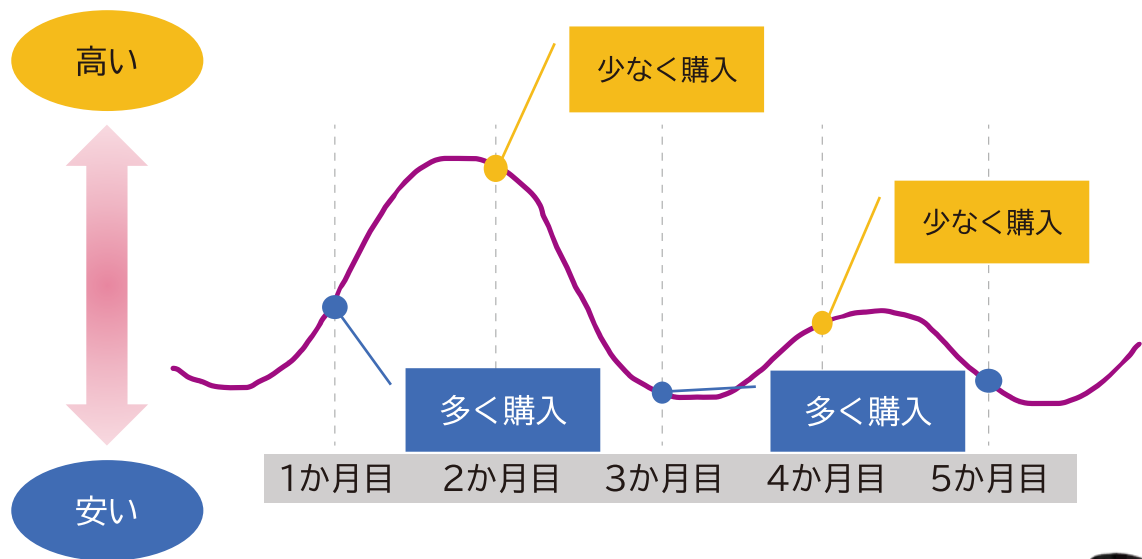
という事で……



答えは「A」です。

この質問をすると多くの方が「B」の方が儲かるとお答えになるのですが、答えは以外にも「A」なんです。

図解すると以下の通りとなります。



ポイント 高いときは少なく、安いときは多く購入する



これが「ドルコスト平均法」の仕組みとなります。

値上がりしたから喜び、値下がりしたら憂うのではなく、コツコツ地道に継続する、すなわち投資信託の基本 **【長期 + 積立 + 分散】** 投資を行えばリスクを抑えることができると言われる所以です。

前回に引き続き資産運用のお話をしてまいりましたが、是非この機会に皆様もご検討されてはいかがでしょうか。

その際はぜひプロのアドバイスをお受けになられることをお勧めいたします。



Insurance representation and life consulting

MID Company Limited

■株式会社MID

京都市西京区川島調子町42-1日章ビル3F

TEL.075-393-6526 e-mail office@ag-mid.jp

<http://www.ag-mid.jp>